

## 数実研メーリングリスト (IZUMI) の復活について

### 1 目的

数実研での研究発表（直接的）を補完する場として、インターネット上（間接的）で意見交換や情報交流を行うことにより、研究会活動の更なる活性化に寄与する。

### 2 背景

この研究会の参加者数が40名程度の頃は、研究発表だけでなく質疑応答も活発に行われていました。

平成6年の発足から20年以上が経ち、数実研の活動は、北海道だけではなく全国の数学教育関係者に周知されるようになりました。それに伴って、研究会の参加者数、レポート発表者数も増加し、さらに活性化してきたといえます。

しかし、数実研の特徴の1つである「双方向性」、つまり、研究発表を通じた意見交換や情報交流の場が確保しづらくなりました。事務局としては、開始時間を早める、持ち時間を設定するなどの対策を行いましたが、なかなか物理的な問題で改善には至りません。

そこで、「双方向性」という意味では、研究会後に希望者で行われる「懇親会」で、いわゆる「飲みニケーション」が行われていますが、それとは別に、誰もが時間に関係なく気軽に参加できる「メーリングリスト」を復活させてはどうかと考えました。

### 3 なぜ「メーリングリスト」なのか？

今、LINE, Facebook, InstagramなどのSNSが広く利用され、「メーリングリスト」は「過去のモノ」の感が拭えません。実際、若い人の間ではスマホでも、電子メールのソフト自体をほとんど開かないそうです。

では、なぜ今、「メーリングリスト」を使おうとしているのでしょうか。

一番大きな理由は、意見交換や情報交流には文字数を必要とすることです。LINEやTwitterは、その利用において、短文、長くても一段落を想定した画面設定と思われます。従って、投稿するときの文字数や体裁を考えたとき、電子メールでのやりとりが適当と考えました。

その次に、「メーリングリスト」の目的の実現可能性を高めるためです。今回は、以前のような誰もが参加できるタイプではなく、研究会の中だけの運用にします。

以前のメーリングリストを管理されていた札幌平岸高校（当時）の早苗先生は、次のように述べています。

以前メーリングリスト「IZUMI」を立ち上げたのですが、誰もが参加できるオープンな形にしたため、あまり思うように機能しませんでした。今度は研究会の中だけの閉じた形の意見交換の場として、ぜひ復活させればと思います。研究会の様々な連絡にも活用できますが、それ以上に日常的な意見交換ができます。限られた時間の中でのレポート発表では、参加者が思うように中身を吟味するのが難しいのも事実です。質問や実践交換を日常的にも行える、そんな場を作成できればと思います。

(2008.2.2「数学のいずみ」総括と今後の展望)

このように数実研の会員に限定することで、情報や話題も絞ることができ、目的の実現可能性をさらに高めると考えます。そのために、管理者の作業等が容易である Google のメーリングリストの機能を活用することにしました。

#### 4 若い先生方に気軽に利用してもらうために

しかし、先に述べたとおりに、現実的にはスマートフォンの普及により、家でパソコンをつかうこと、それに伴って電子メールを使うことがほとんどないという人も多くなったようです。そこで、「スマホ」世代と「パソコン」世代を繋ぐ方法として、スマホ向けのメールソフト、特に、Gmail や Outlook.com (旧 Hotmail), Yahoo!メールなどのフリーメールのアプリを利用することを勧めたいです。この導入によって、他のアプリ同様に新しいメッセージがあったときには、(設定をすると) 通知してくれるので、他の SNS 同様にスマホでも十分に利用できると思います。

#### 5 「メーリングリスト」に期待できること

「メーリングリスト」について、さらに次のことが期待できます。

1つめに、小規模校で勤務する、特に若手の数学教員の相談の場としての活用です。

北海道の場合、広域性から札幌を中心とした都市部と周辺部の移動距離が非常に長いです。また、昨今見られる校務の多忙化により、休日であっても部活動の指導や大会引率などで研究会への参加ができない場合が多いです。これらの状況から、経験年数の浅い教員にとっては、日頃の教科指導に関する悩みを相談できる同じ教科の教員が身近にいない場合もあります。そのようなときに、この「メーリングリスト」を活用することで、異年齢の経験者にアドバイスや情報を享受できることが可能です。また、他の SNS と異なり、参加した段階で多くの会員と一度に「繋がる」ことができるのも大きなメリットです。

2つめに、数実研だけではなく、北数教や数学教育に関わる活動の周知の場としての活用です。

投稿用のアドレスに自分の知らせたいことを送信するだけで、会員全員に同じメールに送信されます。「メーリングリスト」使っているだけで、やっていることは電子メールの送信であるので、ワープロの文書のような体裁で、しかも一度で送信することが可能です。

#### 6 最後に

正直なところ、やってみて観ないと分かりません。この試みがどのように展開していくかは、反省と改善を繰り返しながら、現在の我々の研究会が抱える課題を改善していけるかにかかっていると思います。とにかく、北海道の数学教育の向上のため、まずは、一緒にやってみましょう！

#### <登録・利用方法>

1. 電子メールの①タイトルに「参加申請」、②本文に「所属」「氏名」を記載し、次のアドレス [meprg.sujitsuken@gmail.com](mailto:meprg.sujitsuken@gmail.com) に送信する。
2. 招待メッセージを受信すると、利用可能になる。投稿する場合は、注意事項(別途記載)を守って、次のアドレス [mathe.izumi.g@googlegroups.com](mailto:mathe.izumi.g@googlegroups.com) に送信する。